

CONTENTS COMBAT

2017.Nov.
No.500

11

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Tomoyuki Orimoto
©WORLD PHOTO PRESS 2017

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【巻頭特集】

010 所持を悟らせず秘匿携行する CONCEALED CARRY WEAPONS

【特集／ミリタリー】

060 らんまるぼむぼむタイプα 降臨! 元西普連に学ぶ! サバイバル術からその実像まで

- 066 ニッポンの力こぶ
- 070 富士総合火力演習2017
- 072 多国間PKO演習 カーンクエスト17
- 100 The Equipments of the U.S. Force
【現用米軍装備カタログ】
プレート・キャリア特集Part.1
- 117 Militaria Roundup!
アメリカ海軍フライトジャケット PART1
- 076 TANAKA WORKS
M92F INOX EVOLUTION HP
CERAKOTE STAINLESS FINISH
- 080 WESTERN ARMS
TRP OPERATOR WEAPON LIGHTMODEL
& L.A. VICKERS CUSTOM REAL STEEL Ver.
- 085 WESTERN ARMS
BERETTA M92FS SALT



- 004 COMBAT FRONT LINE
- 088 突撃!!びつちょりーな☆
- 090 NEW GENERATION STYLER

●fujiwara

110 トイガンニュース

110 タナカ S&W M327パフォーマンスセンター2インチ
《ステンレス・フィニッシュVer.2》

111 タナカ コルトS.A.A. ファースト・ジェネレーション5
1/2インチ《“レンジャー”ニッケル・フィニッシュ》

114 WANCHER'S STYLE

●織本知之

116 ミリいじ技研

128 PRESENT

146 サバゲ三等兵 ●織本知之

150 兵装嗜癖 ●by fujiwara

154 PROJECT NINJA ●morizo (東京装備BAKA)

196 Goods & Accessory

200 中田商店グッズ

202 S&Grafグッズ

129 GAME OVER THE TOP

132 US SHOOTING LIFE 特別編

134 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting

136 アラフォーズ!

138 トイガンズ・ジャンクション 特別編

172 サバゲ三等兵APS部!

174 TKの小屋屋 APS編

176 編集長日誌

177 バックナンバーリスト

178 ミリタリー・コレクション

180 レア・ミリタリー・コレクション

182 A STITCH IN TIME

184 シネマ放浪記

185 新作DVD紹介

186 蛙のゆびさき

188 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

190 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

191 読者プレゼント応募方法

192 編集後記



COMBAT
FRONT
LINE

[New Products]



グロックの新シリーズとなるジェン5。まずは、G17とG19が登場だ。

Glock "Gen5" シリーズ始動

●文・写真: 鮫島宗貴

話題のシリーズ登場!!

8月末にGLOCK（グロック）社から、新シリーズとなるG17、G19のGEN（ジェン）5が発表された。

前々からジェン5シリーズが発表されるという話はあったので「今度は、どの口径で、どのサイズだ？」と想像を膨らませていた。実際、グロック社も、各ガンショップでキャンペーンを展開し、このシリーズを大々的に宣伝していた。

ただ、発表されるまで、部分写真すらリークされることはなかったし、グロックのスパonsorドを受ける友人たちに情報を聞こうとしても、笑顔で誤魔化されてしまった。それだけ厳しい箱口令がしかれていたのである。

とは言え「FBIが採用したG17 Mの発展型になる」という噂は流れていた。実際、発表されたジェン5を見ると、G17 Mの民間向けと言う印象だ。

グロック・ジェン5シリーズ改良点

グロック・ジェン5は、この数十年間で、世界中のグロック・ユーザーたちから寄せられた意見を参考に改良を加えてあると言う。主だった点を紹介したい。

- ・新nDLCフィニッシュ
- ・フレームのマグウェル化
- ・フィンガー・チャンネルの除去
- ・アンビ・スライド・ストップの採用
- ・マガジン・ベース・プレートの形状変更

この5点が外観から判別できる主だったジェン5の特徴だ。

nDLCは、より高い耐久性を実現し、腐食に強くなっている。グロック・シリーズをインサイド・ホルスターに入れて持ち歩くユーザーは多いが、スライドの肌が触れる部分が汗で錆びている個体をよく目にする。今回のフィニッシュの防錆力はどれほどのものかは多くの人が気になるはずだ。

フレームのマグウェル化は、僕のようなコンペティション・シューターに限らず、多くの人が歓迎する改良だろう。ジェン3、ジェン4のマガの挿入口は、マガジンサイズと同じで、チョット位置がズレると挿入し難い。僕も試合でリロードにもたついた経験はよくある。実際の現場でも緊張した時にもたつくことは容易に想像できることから、この改良点はとても実践的なものだ。

フィンガー・チャンネルをフレームから除去する改良も、ユーザーの声を素直に聞いたものだ。手の大きさは、性別、年齢、人種によって様々。カスタム・モデルでもないファクトリー製の銃でフィンガー・チャンネルを付けるのは、ナンセンスだ。

アンビ・スライド・ストップは、近年登場するハンドガンでは、よく見られるデザイン。グロックもこれを採用

した形だ。左利きのユーザーだけに限らず、左右両手で同じように銃が操作できることは重要だ。

マガジンもベース・プレートの形状とフォアアーの色が変更された。この変更により、リロードの際にマガジンを掴み易くなった。

今回の改良点は、どれもが実用的でユーザーの声をよく聞いていると感じる。斬新な大きな変更とは言えないが、グロックの優れた性能により磨きかけたものと言えるだろう。

今回の改良点は、どれもが実用的でユーザーの声をよく聞いていると感じる。斬新な大きな変更とは言えないが、グロックの優れた性能により磨きかけたものと言えるだろう。

今回の改良点は、どれもが実用的でユーザーの声をよく聞いていると感じる。斬新な大きな変更とは言えないが、グロックの優れた性能により磨きかけたものと言えるだろう。

今回の改良点は、どれもが実用的でユーザーの声をよく聞いていると感じる。斬新な大きな変更とは言えないが、グロックの優れた性能により磨きかけたものと言えるだろう。

コンペティション・シューター視点から見たジェン5

グロック・シリーズは、既に数挺所持し、大きな試合で何度も撃っている信頼性の高いモデルだ。今回の改良点、先に外観から分かる点を述べたが、内部メカニズムにも変更点がいいくつかある。

まずはバレルだ。GMB (GLOCK Marksman barrel) と呼ばれ

ジェン5の主だった改良点であるアンビ・スライド・ストップ。本文でも述べたが、ホルスターによっては、これが原因で銃が入らないことがある。



スライド・トップエンドをジェン5(上)とジェン4(下)で比較してみた。ファイヤリング・ピン・ストップの形が違うのが、この写真で分かる。



基本モデルであるG17の各ジェネレーション(左からジェン3、ジェン4、ジェン5)。フィニッシュの違いは、写真では判り難いかもしれない。よく見ると、ジェン5ではスライドのエッジの形状が変更されており、衣服に引っかかり難いようになっている。

る新型バレルがジェン5から採用された。ポリゴナルライフレリングなのは旧モデルと同じだが、バレルのクラウン、ライフレリングに改良を施し、より高いアキュラシーを実現していると言う。レンジで各距離、各種弾頭を使ってテストをいざ行なってみようと思う。

次に、トリガー・メカニズムだ。最近発売されたモデルのG42と同じものを採用し、よりスムーズなトリガー・プルを実現している。ここはシューターにとって体感しやすい改良点だろう。手元にあるファクトリー出荷状態のジェン3、ジェン4と比較するとトリガー・プルの違いがハッキリと分かる。

先ほども書いたが、今回もっとも感心したのが、フレームのマグウェル化だ。これと、トリガー・プルの改良は、ほぼ間違いなくコンペティション・シューターたちからの要望で行なわれたものだろう。銃を撃つ視点から見た実用的な改良だ。

他にもスプリングの追加、ピンの数の変更など、グロックを数多く撃つユーザーたちからと思われる現場からの声を取り入れた改良点がジェン5の内部には多く見られる。

僕が見て唯一、気になったのはスライド・ストップがアンビ化されたこと。

アンビ化によってプラスチック製のインサイド・ホルスターに銃を入れようとすると、新規追加されたスライド・ストップ・レバーがホルスターと干渉し、銃が入らない。インサイド・ホルスターは銃を覆う部分が多いからだ。ただし、この辺りのことは、ホルスターを削ることで対処できる。各ホルスター・メーカーが、直ぐに改良したバージョンを出してくるだろう。

今後、グロック・ジェン5シリーズはそのバリエーションを増やしていくことになる。機会があれば、より詳しくテストを行なっていきたい。



ジェン5(手前)ではマガジンのベース・プレートも形状が変更され、より掴み易くなった。

『コンシールド・キャリー(CC)』

周りに気付かれないよう
武器を携帯する。
それだけを聞くと『犯罪』の匂いが漂う。
しかし、実際は
潜入捜査や身辺警護など
プロ、そしてセルフディフェンスなど、
自身の身を守るために
一般市民が携帯する場合が多い。
だが一口にCCWと言っても、
どんなガンが適しているのか？
どんな資格が必要なのかをなど、
その概要、プロ、民間人が
CCする実情を紹介しながら
CCWについて考察する。

所持を悟らせず
秘匿携帯する

CONCEALED CARRY WEAPONS

CCWライセンスとガン

銃器社会のアメリカでも
銃を秘匿携帯するには、許可が必要となる。
どのようなライセンスが必要なのか？
そして理想のCCWを考察する。



Chapter;01

**“規律ある民兵”は
自由な国家の安全保障にとって
必要であるから、国民が武器を保有
または携帯する権利については、
これを侵してはならない。**

アメリカ合衆国憲法の制定(1787年)から4年後の1791年、この『合衆国憲法・修正第2条』は追加された。アメリカ国民には自衛権、すなわち銃などの武器で生命や財産を護る権利が、国家の最高法規たる憲法に明記され裏付けられている。

●Text:Takeo Ishii
●Photo:Takahiro Soyama , Takeo Ishii
●Model : Yui Kamiya
●撮影協力:
CQB GUAM (www.cqbguam.net)
Ichiro Nagata
(『TACTICAL LIFE』ichiro.militaryblog.jp)

自宅や所有地以外で銃を護身用に持ち歩く行為、すなわち『携帯』に際しては『オープン・キャリー (Open Carry)』と『コンシールド・キャリー (Concealed Carry)』の2つがある。『銃を所持しているのが一目で判る状態』と『隠し持っている状態』という事になる。

いずれも州によって制限があったりなかったり、あるいはその中身も様々で、『制限なし (Unrestricted:アンレストリクテッド)』『申請があれば許可する (Shall Issue:シャル・イシュー)』『厳正な審査の上で許可する (May

Issue:メイ・イシュー)』『一切許可しない (=No Issue:ノー・イシュー)』の4つに大別でき、普通はオープン・キャリーよりもコンシールド・キャリーについての制限の方がより厳格である。

アメリカでは『隠し持てる武器』に関する規制の方がより強力で、例えばナイフや拳銃は良くてもヌンチャクの携帯は禁止されている。音も立てず流血も起こさず『ほぼ誰にも悟られずに静かに人を殺す事ができる』という点が問題視される。サブレッサー付きの銃を無許可で所持・携帯した場合と同じ位に重罪、と聞いた事がある。

所持を悟らせず秘匿携帯する
CONCEALED CARRY WEAPONS



01 デトニクスの子孫、『ParaP10-45』。このサイズで.45口径10+1連発！

筆者が元祖コンシールド・キャリー・ウェポンと思っている『デトニクス.45』。あのM1911をこのサイズにまで小型化しつつも実用性を損なわぬカスタムレシビを70年代に確立。



02 『007』のイメージから『携帯する拳銃』としてメジャーな感じの『ワルサー-PPK/S』だが、CCWというイメージではない気がする。

近年はマイクロダットサイトが発達し、グロックG26のような短銃身モデルの『短いサイトレディアス問題』が解消。遠くでも正確に狙えるようになった。



03 CCW用のリボルバーといえばS&WのJフレーム。最近のM60は3インチのフルラグ銃身にアジャスタブルサイト付き。357マグナムが撃てる。



04 ベレッタPX4コンパクト。フルサイズとセットで発売されたパターン。



GLOCK G26

CCW for officers

所持を悟らせず秘匿携行する
CONCEALED CARRY WEAPONS

米LEコンシールド 最新事情

●Text & Photos: Hiro Soga



きな臭いニュースが世界中に起こっている昨今。どの国でも同じであろうが、ここ米においても、警察官=ポリスオフィサーという職業は激務である。日々のルーティンはもちろん、いったん事件が起こると率先して危険に飛び込んでいかなければならないし、命を懸けての戦いになってしまうこともある。そう、彼らは戦いのプロフェッショナル集団。重武装化の進む犯罪集団を相手に、ガンファイトも辞さず、生き残る術を身に付けていなくてはならないのだ。彼らにとってのコンシールド・キャリア・ウェポン (CCW) は2種類。メインのガンに何か起きた際の“バックアップガン”と、仕事から離れた際の“オフデューティガン”だ。さらに自身の立場や状況によってガンやホルスター、装弾数やそのファイアパワーなどのチョイスは人それぞれとなる。そんな米LEの最新CCW事情を知りたい。今回は、タフで忙しい仕事の合間を縫って、3人の現役/リタイアードオフィサーに登場いただき、彼らのCCW事情を聞かせてもらった。



オフィサーたちの認定訓練。これに合格しなければ元のパトロールオフィサーに向いている、ということ。

米在住のシューターが語る、
米市民のリアルなキャリーガン事情。



●Photos & Text: Muneki Samejima

CCW in AZ

Arizona

米市民コンシールド最新事情



所持を悟らせず秘匿携行する
CONCEALED CARRY WEAPONS

銃が日常にある生活

銃を腰に挿して携帯する。ギャングや街の強盗に自分自身や友人、家族が襲われれば、銃を取り出して相手を撃ち、危機的状況を脱する。映画、ドラマでもよくあるシチュエーションで、銃好きであれば、自分がもしそんな状況に遭遇したら……何て想像をした事はあるだろう。僕もそんな1人。小中学生の頃は、そんな妄想をよくしていたものだ。サバイバルゲームに夢中になったのもそれが理由かもしれない。しかし、成長するにしたがって冷静に物事を考える事が出来るようになってくる。まず、日本と言う国において、『実銃』を携帯する事は不可能だし、今後も法律が変わるような事もないだろう。では、エアソフトガンを『変わり』に携帯するか？ いや、それも無いだろう。もちろん遊び心でそれをする人は居るかもしれないが、このご時世、職質を受けたりすればトラブルになりかねない。そもそもエアソフトガンは、『おもちゃ』であり、殺傷能力は持たない。自分の身を守る事はエアソフトガンでは出来ない。高校生になる頃には、僕は日本と言う秩序のある安全な国で生活するのであれば、自分が実銃で撃ち合いをしようという可能性は限りなくゼロに近いと悟った。そんな『妄想事態』を想定してトイガンで遊ぶのも悪くはないのだが、より現実的な何かを求めるようになり、それが僕にとっては競技であるコンペティション・シューティング(射撃競技)だったのだ。そして、その世界にどっぷり浸かるようになり、射撃競技の本場であるアメリカに住んでそこで世界チャンピオンを目指したいと考えようになったわけだ。

CCWとは？

この数年で、アメリカでは、CCWと呼ばれる銃の携帯許可書を取得して銃を日常的に携帯する人が増えている。CCWの略は、Carrying a Concealed Weaponもしくは、Concealed Carry Weaponだ。



銃を携帯するのは、 コンシールド・キャリーと オープン・キャリーの2種類

コンシールド・キャリーは、外から見ると銃を持っていると悟られないようにして携帯する事だ。逆に、オープン・キャリーは警官の様にホルスターに銃を入れて、周囲に自分が銃を持っている事を見せている状態を示す。写真では、銃をあえて見せているが、この状態をうっかり作り出してしまった場合、それはコンシールドが失敗している状況となる。アリゾナではオープン・キャリーも認められているため、うっかり銃が腰にある状態を他人に見られても問題ないが、州によっては、オープン・キャリーを禁止している場合がある。その場合、他人に銃の携帯を見られ、警察に通報された場合、CCWのパーミットが取り消しになる可能性があるため注意したい。

元西普連に学ぶ!

★C★M★に降臨!!

らんまる ぼむぼむタイプα

サバイバル術から
その実像まで



9月号「ニッポンのカゴボ」～西部方面普通科連隊 日仏英米共同訓練～から。波や音を立てないように、ゆっくりと浜辺を目指す西普連の偵察部隊。



写真:菊池雅之
文:らんまるぼむぼむタイプα

島しょ防衛強化をいそぐ自衛隊。
その独自の役割を帯び、精鋭化が急がれている連隊。
それが、西普連こと、西部方面普通科連隊だ。
2018年に新編される水陸機動団の中核部隊ともなる西普連。
そこに在籍した元自衛官に、
自衛隊ラブ! なミリタリーアイドルが、1日弟子入り!
苛酷な訓練、そのほんのさわりを! って気分でしたら
ロケ日は関東地方に台風大接近中!
大荒れの海辺で、リアルにタフな訓練になってしまいました!
”水陸両用”らんまる、大丈夫か!?
人気ミリ女子芸人によるサバイバル企画・ついに始動!

台風せまり来る海から上陸! のらんまる&古東さん。
らんまるが斥候役、古東さんはその支援に回る。

富士総合火力演習2017

これを見なければ、夏は終われない！今年も総火演こと、富士総合火力演習が行なわれた。
74式、90式、10式と陸自戦車が勢ぞろいするのはもとより、
89式装甲戦闘車に87式自走高射機関砲、AH-64Dアパッチ…と、
枚挙に暇がないほどの陸自装備の大集結！
陸自フェス、ここに開催！

写真・文／菊池雅之

初登場!!

MCV



MCV (バック)



AAV7



今年もミリタリーマニアの真夏一大イベント富士総合火力演習が8月27日に行なわれた。

目玉は、前段（第1部）演習に参加した16式機動戦闘車MCVと水陸両用車AAV7だ。昨年は、総火演終了後に装備品展示されただけであったが、今回は機動展示として、会場を所狭しと走り回った。改めてMCVの機動性の高さには驚かされるが、やはり射撃を見てみたい。こ

れは来年に期待しよう。

10式戦車も健在。今年は初となるバックでスラロームして射撃をするという難易度の高い技も披露した。意外と頑張っていたのが74式戦車だ。いぶし銀のベテラン戦車の勇姿もあと何年拝めるのか…。そう考えると実に寂しい限り。

知る人ぞ知る“あひる奉納”も行なわれた。偵察教導隊の隊員が、無事故祈願として始めた総火演神事である。偵察オ

ートを使った大ジャンプは、実弾射撃と並ぶ総火演の見せ場となっているが、過去転倒し、ケガをした隊員が何人かいた。そこである日から、アヒルのおもちゃをジャンプ台の下に奉納し、全員で並んで2礼2拍手1礼で、安全祈願。今年は大きなアヒルを抱えている隊員がいたので、それは何かと尋ねると、なんとお神酒が入っていたそうだ。口の部分からピューとお神酒を注ぎお供えしたそうだ。



01.



02.



03.

01) UH-60JAからリベリング降下する普通科教導連隊のレンジャー隊員たち。02) 155mmリゅう弾砲FH70の射撃。会場目の前で行なわれる。03) 空中で砲弾を破裂させる曳下射撃の様子。



04.



05.

04) ジャンプ台の真下に作られた祭壇。その上に奉納されているアヒル神さま。年々数も増えていく。最近では総火演名物となり、お参りするお客さんも多い。05) 厳かに行なわれる安全祈願。左から2番目の隊員がお神酒を抱えている。